

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M344M201		医用工学 (Biomedical Engineering)					コース共通専門分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
生命健康科学 コース必修、 臨床医工学コ ース選択	2	2	医学部先進医 療科学科	後期	月1	日本語		オムニバス								
担当 教員	氏名 児玉 雅明、梅田 涼平 E-mail kodm@oita-u.ac.jp 内線 10-6113															
授業 の概 要	現代の医療関連業務においては、物理学、電気工学、情報工学、細胞工学などの工学的な知識が必要不可欠となっている。医療機器にかかわる工学的な知識の習熟とともに医療機器操作を行うための正しい知識の習熟を目標とする。それに加え、現在の医学を取り巻く工学的な研究方法を知り、機器の操作管理だけでなく機器創出における知識的な土台づくりを行う。そのために、講義直後には学生間のグループディスカッションを通じて、講義の内容に基づいて、医学分野における工学のあり方を議論し、医療工学分野での課題発見に対する能力を身につける。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1 医療機器と工学的な知識の接点について理解する。																
目標2 医療機器操作・管理にあたり必要とされる知識について説明できる。																
目標3 治療・検査領域における課題について議論ができる。																
目標4 生体において工学的な知識を用いて議論できる。																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)									4	1	1					4
授業の内容																
1 総論 : 生体機能・構造と生体の物理特性(梅田 涼平)																
2 各論 : 医用電極と生体に使用される医用電子技術(梅田 涼平)																
3 各論 : 生体計測法とその特性(臨床検査で用いられる医用工学の基礎と応用)(児玉 雅明)																
4 各論 : 音を用いた計測機器と治療機器(梅田 涼平)																
5 各論 : 光を用いた計測機器と治療機器(梅田 涼平)																
6 各論 : 医用工学とそれを取り巻く環境(梅田 涼平)																
7 各論 : 人工臓器とバイオメカニクス(梅田 涼平)																
8 各論 : 生体において、工学的技術を安全に使用するために[課題1](梅田 涼平)																
9 総論 : 臨床におけるシステム工学と情報工学(梅田 涼平)																
10 各論 : システム工学とシステムとしての生体(梅田 涼平)																
11 各論 : システムの制御と特性(梅田 涼平)																
12 各論 : 生体内の機構とその制御(梅田 涼平)																
13 各論 : 情報機器とその利用(梅田 涼平)																
14 各論 : ネットワークとハードウェア[課題2](コンピュータネットワーク)(児玉 雅明)																
15 まとめ、小テスト(演習)(梅田 涼平)																
ラ イ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認		A:調べ学習、レポート			工 夫 そ の 他 の	すべての講義の最後に講義内容を用いたグループディスカッションを実施									
	B:意見の表現・交換		B:グループディスカッション													
	C:応用志向		:グループディスカッション													
	D:知識の活用・創造															
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(20h)													
	事後学修		グループディスカッションに関する発表準備(10h)、配付資料を用いて復習する(15h)													
	想定時間合計		45													
教科書		嶋津 秀昭・中島 章夫(編)『臨床検査学講座 医用工学概論』医歯薬出版、2018、ISBN978-4-263-22374-1														
参考書		W. Mark Saltzman 『Biomedical Engineering: Bridging Medicine and Technology 2nd Edition』Cambridge University Press、2015、ISBN-13 : 978-1107037199 R Lanza, R Langer, J Vacanti 『Principles of tissue engineering 3rd ed』Academic Press、2007、ISBN-13 : 978-0123706157														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	生体における工学（グループディスカッション）[課題1]	20%										
	工学知識の医療転用（グループディスカッション）[課題2]	20%										
	定期試験[課題]3	60%										
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務経験	医師、臨床工学技士											
実務経験を いかした教 育内容	医師、臨床工学技士の業務経験をもとにした、キャリアや知識をもとに学生指導を行う。											